

川崎市子ども会議 カワサキ☆U18 議事概要

○司会 お待たせしました。時間になりましたので、川崎市子ども会議 カワサキ☆U18を早速始めたいと思います。

今日は、皆さん、本音を聞かせてもらうことで、大人が「なるほど」と気づいたり、今日話し合った内容を今後、大人と子どもがパートナーとして川崎市をもっとよくしていくために検討したりしていきたいと思っています。楽しい雰囲気の中でやっていきたいと思っていますので、市長からも、市長として責任ある立場の発言だけじゃなくて、アイデアを話し合うパートナーとして、いろんな話をわいわいと話したいなというふうに聞いていますので、ぜひ皆さんで盛り上げていきたいと思っています。

では、早速市長を呼んでみようと思います。皆さんで呼びますよ。せーの。

○子どもたち 福田市長～！

(市長入室 拍手)

○市長 川崎市長の福田紀彦です。今日は、カワサキ☆U18に本当に多くの皆さんに参加していただいて、ありがとうございます。

僕のところには、毎日たくさんの手紙が届きます。市長への手紙という制度があって、そこに本当に毎週こんなに手紙が来てね、こういうことを川崎市でもっとやってほしいとか、あるいはこういうことに困っているんですというふうなお手紙、たくさん頂きます。

でも、時々中学生とか小学生の子からお手紙頂くんだけど、大体、大人が多いです。でも、今日はアンダー18。18歳以下の子どもたちの意見も川崎市にとっては大切な意見です！

みんなの声がちゃんと川崎市の仕事につながっているかな、みんなの学校だとか日常の生活につながっているかなといったところが、とっても不安になることがあります。だから、もっとしっかりと皆さんの意見を聞いて、川崎市の仕事に生かしていければいいなというふうに思っています。

今日は、三つのテーマに絞っていますが、事前アンケートの結果、この三つのテーマがすごく多かったので、今日はその話をもう少し深掘りして、みんなの率直な意見を聞いてみたいというふうに思っています。

今日は短い時間ですけども、どうぞよろしくお願いします。

(拍手)

○司会 それでは、はじめに「ステップ1」のグループでおしゃべりしながら、各自フリップづくりをします。各グループには、「かわさき若者会議」と「川崎市子ども会議サポーター」のみなさんが、サポートしてくれますので、サポーターと一緒に、今から30分間、グループトークとフリップづくりをお願いします。

【グループトーク・フリップ作成】

○司会 それでは、ここから「ステップ2」、市長との話し合いの時間になります。

最初にテーマ①の「ボール遊びがしたいっ！」のフリップと関連するワイルドカードがあれば、その準備をお願いします。

では、ここからは、市長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○市長 ありがとうございます。皆さん、熱心に議論していただきました。フリップ、たくさん上がっています。なるべく多くの皆さんに発言してもらいたいなと思っています。

それでは、るかさんから行きましょうか。るかさんから発言してもらっていいですか。

○るかさん ボール遊び専用の場所が欲しいです。どうしてかという、今は遊具とかがあって、そこで遊んでいる子たちにボールが当たったり、何か近所の家にボールが飛んでいったらいけないから、禁止されているので、ボール遊び専用のところで、コートとかネットとかそういうのが張ってあって、近所に飛んで行ったりしないようになってほしいと思ってです。

○市長 るかさんの意見は、公園でボール遊びがなかなかできないからという話ですか。

○るかさん はい。

○市長 はい。同様の意見の方、いらっしゃいますか、手を挙げてもらっていい。同じような意見持っているよと。おいなりさん。いいネーミングだね。

○おいなりさん 僕は、公園でバットを使ってボール遊びをしたいなと思いました。

○市長 なるほど。

○おいなりさん なぜかという、僕の家の方に公園が二つあるんですけど、そのうちの一つは、フェンスがあるのにバットを使っちゃ駄目というものがあるって、もうひとつは、バットは使えるんですけど、ネットがないから、ほかのところに飛んで行っちゃったりして危ないから、なかなかバットを使って遊べないんです。

○市長 なるほど。

○おいなりさん そこで使えるといいなと思いました。

○市長 ありがとうございます。ボール遊びといっても野球もあるよね。バットがなかなか難しいという意見も出ました。ほかに、今、手を挙げてくれていた子、ジョンさん、お願いします。

○ジョンさん バットを使いたいというのと同じ感じで、ボールを蹴るというのは、何か校庭でも公園でも何か完全に禁止されていない公園でも、何かやりづらかったり、学校だと禁止されちゃったり、そういうところがあるので、ボールを蹴るというのもやりたいなと思いました。

○市長 なるほど。バットも使いたいけど、思いつき蹴りたいというのがありました。ほかに、手が挙げたの誰かな。たいようさん、お願いします。

○たいようさん 僕は、公園にいろんなスポーツのゴールを置いてほしいです。なぜかという、部活とかでスポーツ部に入っているんですけど、なかなか練習が近くでできなかったりするので、バスケットボールのゴールとか置いてほしいんですけど、そうすると近くの小さい子とかに当たっちゃうので、さっきほかの人が言ってくれたように、区別して、ゴールが使えるところを区別したりして、全員が楽しめるようにしてほしいです。

○市長 ありがとうございます。すばらしいです。それでは、次にあいみちゃん、発言してもらっていいですか。

○あいみさん 私は、校庭をいつでも自由に使いたいなと思いました。なぜなら、私の学校では、放課後校庭を使うことができないので、校庭は広いので、夏休みとか冬休みでもボール遊びとかもできるんじゃないかなと思ったので、校庭でいつでも遊べるように全ての学校がなってほしいです。

○市長 はい。ちなみにあいみちゃんはどんなことをしたいですか、校庭で。

○あいみさん 校庭だったら広いので、いろんな友達と鬼ごっこをしたいです。

○市長 鬼ごっこね。オーケー。ななさんも校庭を自由に使いたいと書いてくれました。どんなふうに使いたいですか。どんなことをしたい、校庭で。

○ななさん ボール遊び。

○市長 ボール遊びしてみたい。もっと校庭を自由に使いたいと言ってくれました。自由に使いたいと思っ

ていると書いている人って、もっといたかな。くたらぎさん、お願いします。

○くたらぎさん 公園みたいにいつでも自由に出入りができるようにしてほしいと思います。

○市長 うん。今の校庭はなかなか使えていない。

○くたらぎさん たまに平日も使えますけど、結構少ないし、時間も限られているので、もっと土日とかは、長い休みとかはそういうところでやってほしいと思います。

○市長 もっと公園みたいに自由に使いたいということですね。

○くたらぎさん はい。

○市長 ありがとうございます。

もえかさん、「More Free!」と書いてありますね。もっと自由ということでしょうか。

○もえかさん はい、そうです。私の通っていた小学校でも、何か校庭で放課後遊べるようなことがあったんですけど、何か登録が必要とかだったりとか、先生が見てくださるので、何かもっといろんな学年とかの制約がなく、時間とかももうちょい遅くまで遊べて、何か先生にいろいろこうしなさいとか、この遊びは危険だから駄目ですとかというふうに言われたいような環境で遊びたいなというふうに思いました。

○市長 ありがとうございます。じゃあ、トキさんお願いします。

○トキさん 校庭でも公園でもどっちでもいいんですけど、ボール遊びをしっかりできるスペースをつくるために、天井は開いているようにして、壁を立てます。音がうるさいというのもあるそうなので、そのスペースの内側に、スポンジとかそういうので音が鳴らない、衝撃が吸収できるようなものをつけて、しっかりと安全でしっかりボール遊びがちゃんとできるような環境が校庭にも公園にも必要だと思いました。

○市長 ありがとうございます。シュンさんに聞いていいですか。

○シュンさん 僕は、ボールを増やしてほしいと思いました。学校にあるボールは2個、3個ぐらいだから、中休みとかで遊ぶやつは少ないから、ボールを増やしてほしいと思いました。

○市長 ドッチボールとか、いろんなボールを増やしてほしいということですね。

○シュンさん はい。

○市長 はい。ありがとうございます。ほかに発言したいなという子いますか。では、たいちさん、どうぞ。

○たいちさん ちょっと壁を立てるというのと似ているんですけど、ネットを張って、ボールが外に飛び出さないようにしたらいいと思います。

○市長 ありがとうございます。さっきのトキさんの意見に少し似ているね。それでは、たくみくん、お願いします。

○たくみくん 僕は、校庭のことなんですけど、ボール遊びするときに、1年生とかに迷惑だって言われるから、ボール専用の校庭とかを作ったほうがいいと思いました。そのほうが、迷惑がかからないし、うるさくならないし、1年生の迷惑にならないからいいと思いました。

○市長 ありがとうございます。じゃあ、やまださん、お願いします。

○やまださん 公園、住宅地の公園が多いんですけど、ボール遊びとかしていて、うるさいとか言うてくる人が多いので、周りにできるだけ住宅がないところに公園をつくってほしいです。

○市長 ほかにどうでしょうか。ユウゴさん、お願いします。

○ユウゴさん 僕は、放課後、帰った後でも校庭で遊びたいです。今は、帰った後、もう学校に入れないけど、昔は入れたみたいな感じだったから、また校庭を放課後も使えるようにしてほしい。そのために遊具とかを決めて、校庭で遊べるようにしたい。

でも、そうすると、幼稚園児とか中学生とか、1から6年生とかいっぱい学校に入って、ドッチボールする子とかで、もういっぱいになっちゃうから、1、2年生、3、4年生、5、6年生、幼稚園生、中1、中2、中3とかで、1か月ずつとかで分けたらいいなと。

○市長 ほう、なるほど。年代で分けるという、いいアイデア出てきましたね。ありがとうございます。

えーたんさん、お願いします。

○えーたん トキさんと似ているんですけど、ボール遊び専用のスペースをつくって、小さい子とかに当たらないように、ボール遊びだけできるようなスペースが欲しいです。

○市長 ありがとうございます。優しいね、うん。ボールとか当たっちゃう子とかすごい気になるね。

じゃあ、のあさんお願いします。

○のあさん 私は、校庭にボール遊び専用スペースを設けるのがいいと思いました。私の家の近くの公園って、大体ボール遊び全般が禁止されていて、なかなかボール遊びしたいけどできないなという子が結構多いんですね。それができるのが校庭だなと思っていて、校庭だったら、学校って部活とかクラブとかでいろいろな種類のボールがたくさんあると思うので、校庭にそういうボール専用スペースを設ければ、みんな楽しめるんじゃないかなと。安全面でも防球ネットを設置して、けがを防ぐみたいな、そういうことができると思います。

○市長 なるほど。今、のあさん、中学校3年生ですよ。

○のあさん はい。

○市長 今、おっしゃっているのは、小学校の校庭のお話ですか。

○のあさん 小学校の校庭でも中学校の校庭でも。

○市長 中学校の校庭は結構部活動で使っていない？

○のあさん 部活動、いや、使っていないです。

○市長 そうなの。

○のあさん はい。

○市長 それは結構珍しいケースかもしれない。ありがとうございます。じゃあ、次は、あかりちゃん、行ってみましょうか。

○あかりさん 私は、私たちが遊ぶことを理解してほしい、大人の皆さんに理解してほしいというので、すごく抽象的なんですけど、例えば公園に柵を設置してほしいとか、うるさいと言われるのが嫌だなというので、例えば公園でボールが当たったりして、うるさいなという人たちに、もう少しだけ広い心を持ってというか、ちょっと遊んでいるときに、元気に遊んでいるんだなと思ってほしくて。多分、公園の周りに住んでいる人とかって、きっと公園で遊んでいる子どもたちとかが元気だなと思ってくれたり、元気よく遊んでいるなと思ってくださったりする方々が多いと思うので、そういう人たちに少し同じように感じてもらえたら。

公園は私たちが遊ぶために大人がつくってくださった居場所なので、もうちょっとボールのこととかも柵を設置することとかも、大人がもう少し理解してもらえれば、私たちがもう少し、もっと遊びやすくなるんじゃないかなと思います。

○市長 賛成です。大賛成です。ありがとうございます。

隣、もえかさん、ワイルドカード上がっています。発言をいただけますか。

○もえかさん 何度もすみません。あかりさんの意見とすごく似ているんですけど、運動会とかでも、運動会の音がうるさいというふうにクレームが来ちゃったりとか、大人がお弁当を作れないからということで、運動会の時間がお昼までで終わりになってしまったりとか、大人を中心に何でも決められてし

まっぴいて、大人が迷惑だからボール遊びも禁止とかというふうになってしまうのは、何か子どもが遊ぶための公園で、ちょっと違うんじゃないかなというふうにも思ったので、川崎市は、かわさきパラムーブメントがあるから、そこに子どもに優しくということも盛り込んでもらって、子どもに優しい人が川崎市内に増えてくれたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

○市長　すごく素敵です。書いてあることも、「目指せ、子どもにも優しさ日本代表」と書いてくれています。かわさきパラムーブメントのところを、少しもじってくれたんですね。ありがとうございます。

今のところ、ボール遊びをしたいんだという。でも、音の問題もあるし、ボール遊びするとぶつかったりとか、危ないなというふうに思っている人たちもいます。

さっき、ユウゴさんが時間帯を分けたらどうか、時間帯というか曜日を分けたらどうかという、学年でね、という話もありました。たしかに、僕たちの公園、明確にボール遊びが禁止となっていてところは少ないかもしれないけども、ほとんどできないというところが多いですね。

だけどボール遊びしたいよね。だから、今、意見の中で、校庭をもう少し公園みたいに自由に遊べるというのがいいよねという話があったと思います。みんな大体そういう感じですか。

ちょっと違うよという意見の方、いますか。はい、どうぞ、アイさん、お願いします。

○アイさん　私は、校庭でお菓子を食べたいなと思いました。

○市長　食べたい。僕も食べたい（笑）。

○アイさん　よく公園で、みんなでお菓子食べるんですけど、校庭でも食べたいなと思って書きました。

○市長　どうですか、皆さん。食べたいよね。食べたい。煽っちゃいけませんけど。学校のルール、いろいろあると思うんですけど、食べたいね。何かできないかね。すごくいい意見ですね。違う角度で意見いただきました。ほかにありませんか、かずきさん、お願いします。

○かずきさん　僕は、校庭を分割して、場所ごとにできる遊びを決めてほしいと思いました。

○市長　なるほど。

○かずきさん　なぜなら、僕の小学校も校庭で遊ぶ学校だったんですけど、サッカーをやっている人もいたり、ドッチボールをやっている人もいたり、鬼ごっこをやっている人もいたんですね。それで、ボールが鬼ごっこをしている人とかに当たってけがしたみたいなのがよくあって、それを防ぐためには、できる場所を分けて、けががなくなるようにしたほうがいいなと思いました。

○市長　なるほど。すごく優しい。ありがとうございます。わかちゃん、行ってみましょうか。

○わかちゃん　私、中2なんですけど、中学生とかになるとボール遊びがしたいという思いはあっても、それを恥ずかしくて言葉にしないという人が多いのかなと思って、実際、私も友達にも結構そういう人がいるのかなと思ったので、週に1回ぐらいみんなで、校庭で遊びましょうという日をつくってほしいなと思ったのと、私の中学校は、ボール遊びが基本オーケーで、バレーボールとかサッカーとかやっている人いるんですけど、そういうののスペースとかが決まっていないので、人が多過ぎて、外に出るとボールが当たるというのが多いのかなと思ったので、スペースとかをきちんと決めてほしいなと思いました。

○市長　なるほど。スペースを分けてほしい。次にゆっきーさん、いいですか。

○ゆっきーさん　今の意見と似ているんですけど、ボールが当たって痛いということもあるので、曜日別でエリアを分けて、エリアを防球ネットとかでエリアを分けて、ボールがぶつからないようにしたらいいのかなと思います。

○市長　ありがとうございます。エリアで、競技別にエリアを分けるという話も出てきましたね。もう一つありますか。

○ゆっきーさん もう1個は、ボールで遊べる日をつくる。

○市長 ボール遊びできる日を決めると。

○ゆっきーさん はい。

○市長 なるほど。ありがとうございます。逆にボール遊び、さっきお菓子食べたいという話ありましたけど、ボール遊びじゃない校庭の使い方をしたいという子、いますか。別にボール遊びじゃない、さっき、あいみちゃんから鬼ごっこありましたね。ほかに校庭で、ボール遊びだけじゃない校庭の使い方ってありますか。しーちゃん、お願いします。

○しーちゃん 校庭に、私、中学生になって校庭に何か鉄棒とかそういう遊具とかが何もなくなっちゃって、ボール遊びしかできないという状況なんですけど、何か例えばブランコとか、さっき言った鉄棒とかそういうのを増やしたり、遊具じゃなくてもボール以外の何かフリスビーとかフラフープとか、そういうのを増やしたりできると、遊びのレパートリーが広がるんじゃないかなと思いました。

○市長 なるほど、なるほどね。遊びのレパートリーか、確かにフリスビーなんか1個あるとね、また違う遊び方できますよね。

この前、僕、小学校に遊びに行ったら、フラフープやっている人たちすごく多くてびっくりして、結構やっている、みんな。ある学校とない学校があるのかな。

○子どもたち あるけどできない。

○子どもたち あるけどやってない。

○子どもたち わくわく専用になっている。

あるけどやっていない、あるけどできない。

○いろいろあるね。わくわく専用になっているんだ、ああ、それはあるね。だけど、それはわくわく以外の人は駄目なんだ。だから、わくわくというのものもあるけど、わくわく以外のところも学校、自由に。さっきから言っているみたいに、公園みたいにもうちょっと自由に使いたいなというところが皆さんの意見ですか、大体。意見違う人、いませんか。ジョンさん、ワイルドカード。どうぞ。

○ジョンさん 結構先の話にはなっちゃうと思うんですけど、外の公園とかで遊ぶときの服装って、何か外用の、何かどうしても寒い日は動きづらい長袖を着たりとか、靴とか履いていたり、床がやっぱり外だから汚かったりするじゃないですか。だから、どんどんいろんな対策が進んでいったら、何か素足で遊べる屋内の公園みたいなのがあってもいいんじゃないかなと思って。

○市長 屋内の公園ね。なるほど。

○ジョンさん そう。雨の日とか外で遊べない。

○市長 ありがとう。ジョンさん。同じ意見をどっかで見たぞ。まりなさん。

○まりなさん 私は、雨の日とかだと外で遊べないじゃないですか。だから、中でも、雨の日でも何かみんなが遊べる時間をつくりたいので、屋内、何か子ども文化センターみたいなところがあるんですけど、ああいう感じの室内で遊べる体育館みたいな大きい公園が欲しいなと思いました。

○市長 なるほど。雨の日こそ暇だからね、確かにね。

逆に、コウタさん、隣。ふだん使えているからこのままでいいと書いてありますが、結構自由に活用していますか。

○コウタさん そうですね、やっぱり僕の近くの公園では、ボール遊びの禁止の何かそういう看板はあるんですけど、そういう公園の管理者の人の何かコメントみたいなやつが看板に書いてあって、気をつけたら使ったりしてもいいよと書いてあって、一応やってみたら、みんなで気をつけたり、一応公園にも安全対策みたいにネットや柵があつたりして、家の人たちにもあまり迷惑とかもかかっていないか

ら、だからこの意見にしました。

○市長 ありがとうございます。すごく、羨ましい。公園でそんなに自由に、ある意味、地域の人たちの中で一定のルールができていて、自由にある程度使えている、コウタさんのところはできているんだということだね。ありがとうございます。

いや、僕の先ほど言った市長への手紙でもね、結構公園でボール遊びできないというふうなので、困っているんですというお手紙、すごく多いです。公園の中で、もう少し自由に地域の中でルールづくりできませんかとお願ひしていても、なかなか難しい。多分、コウタさんのところは、すごくうまくいっているところなんじゃないかと思いますが、市全体としては、なかなかうまくいっていません。

そういう意味で、校庭をどうやって自由にもっと使えるようにするかというのは、ものすごい大事なことだと思います。確かに公園だとすごく大きい公園というのは、川崎市内、そんなに多くないので、その中でバットも振りたい、サッカーもやりたい、バスケットもやりたいというところがある一方で、さっき、危ないよねというお話もありました。小さなお子さんもいるし、確かに子どもさんたちが中心なんだけども、小さいお子さんだったり、あるいはお年寄りの方がゆっくりしているところにボールが飛んできたら怖いよねと思う人たちもいますよね。

だから、さっきアイデアが出てきたように、公園でも時間を分けたりというのものもあるかもしれないけども、もっと使えるスペースとしては、校庭をもう少し自由に使えればいいなと私も思っていますし、今、少しそういう議論をし始めているところです。何らかのそういうルールをみんなでつくる。大人とか市役所がつくるというよりも、みんなでつくっていくと。

だって、誰かが決めたルールよりも自分たちでルールつくったほうがよくない。ね、だって、自分たちの学校は、このぐらいの校庭の広さでというところと大きいところと小さいところとかもあるし、体育館がこっち側にあるからボール遊びしにくいなと思っている学校もあれば、そういうところじゃないところもあるもんね。だから、その学校ごとに応じたルールづくりというのは、あったほうがいいよね。

ぜひこういった意見があることを今、本当、大体今日、45人ぐらい来てくれていると思うんだけど、大体みんなそういう意見だということがよく分かりました。

今日は何か結論を出す会ではありません。今日、みんながこういう意見があったというふうなのをみんなで分かって、最後、テーマをちょっと絞りたいので、3テーマありますよね、今日。まず、テーマの中から少しもうちょっとテーマを絞れないかなということで、まず一つ目のボール遊びのことについてテーマをやりました。

ちょうど時間が来ましたので、次のテーマに行きましょうか。皆さん、ありがとうございました。じゃあ、一つ目のテーマはここで終了です。

○司会 ありがとうございました。

二つ目のテーマ、「残さず食べなくなっちゃう給食づくり」のフリップの準備をお願いします。

こちらのテーマについては、フリップが二つあります。一つは、「給食が残るのはどんなとき？」という理由を聞かせてもらうものと、あともう一つ「どうやったら今よりも食べなくなる？」という二つのフリップがあります。

市長には、一つ目のフリップ、大体、皆さんのお話聞けたなというところで切り替えていただければというふうに思っていますので、まずは、一つ目の「給食が残るのはどんなとき？」というフリップのほう、皆さん、準備ができたから見せてください。では、市長、お願いします。

○市長 はい。ありがとうございます。みんな、準備大丈夫ですか。ちょっとこちらから見ると、いい意見出ているなどと思って。では、あきさんから行きますか。あきさん、なっちゃん、それからいっくんまで行きますか。はい、では、あきさんからお願いします。

○あきさん 給食が残る理由なんですけど、多分量が多いからだと思うんですよね。何か栄養士の方々は、何か子どもが食べる量を何か多分ちゃんと計って、それで多分みんなに出してくれていると思うんですけど、一人一人食べる量が違うので、出されたとしても食べ切れないという人が多いと思うんですよね。だから、そんな押しつけないでほしいと思います、給食を。

○市長 分かりました。どうもありがとうございます。量が多いね。人によっては、食べれる量は違うんだという御意見ですね。そのとおりですね。はい、では、なっちゃんお願いします。

○なっちゃん 時間がないということなんですけど、そもそもは、多分食べるのに十分な時間があると思うんですけど、例えば前の授業が延びちゃうと、それでまた給食の準備をしてとなると、十数分しか食べる時間がなかったり、あと昼休みの時間とか、あと放送委員だったりすると放送しなきゃいけなかったり、ほかの仕事があるので、それまでに食べないといけなくなると、ちょっと時間がなくて食べ切れないというのもあるし、あと時間がないと、ちゃんとよくかめないの、健康にもよくないですし、そこを改善していけたらいいなと思いました。

○市長 ありがとうございます。はい、いっくん、お願いします。いっくんは高校1年生ですね。去年まで中学の給食を食べていたんですよね。では、お願いします。

○いっくん 私が書いたのは、おかわりに行けない雰囲気があるときですね。小学生のみんなは、多分あんまり感じたことないかもしれないですけど、例えば中学生の女子で、前に行って、給食でおかわりのご飯を取りに行くのが一人だけだとなると、「食いしん坊だな、君」みたいに思われちゃったりすることがある。それが怖くなっちゃうんだよね、中学生になっちゃったりすると、みんな。

だから、そういう怖くなっちゃうような雰囲気じゃないように、何かもっとみんなで、おかわりに行っても大丈夫なんだという雰囲気をつくと僕は減るんじゃないかなと思います。

○市長 ありがとうございます。なるほど。中高生人たちから、まずお話を聞いてみようかな。

じゃあ、もっくんもそうだし、もちさん、それから、わかちゃんもいいですか、次。

○もっくん うちの学校では、副菜とご飯と牛乳の三つが残るんですよ。副菜は特に豆を使ったときは結構残りやすいです。ご飯は、まず、あんまりおかわりする人がいないことと、あんまり食べない人が多いというのが、ご飯の残る原因です。牛乳は、なぜか飲まない人がいるんですよね。それで、おかわりで牛乳飲む人はいるんですけど、ほかのクラスとか見ると、牛乳をたくさん残している人がいたんですよ。まず、おかわりできない人がいるとかの関係では、やっぱり牛乳は残りやすい給食のメニューです。

○市長 ありがとうございます。もっくん、すごく見えていますね。特に豆を使ったときが残っていると。結構みんなうなずいていたからね。確かに。はい、じゃあ、もちさん、行きますか。

○もちさん 僕は、中学生のときに、特に牛乳とカレーのときのご飯がすごい余るなど感じました。

牛乳は、そもそもパックだから、飲むか飲まないかの2択になっちゃって、飲むときは、もう全部飲まなきゃいけないから苦しいから飲まないとかと言って残す人が多くて、僕がおかわりして、何本か飲んだりしました。カレーのときのご飯は、何かカレーの味が薄いと言っている子がクラスメイトにいて、言われてみればそうだけど、何か人のその辺は主観なんですけど、薄いと感じる子が結構いたの、カレーのときのご飯は残りやすいなと感じました。

○市長 なるほど。ありがとうございます。じゃあ、わかちゃんはいいいですか。

○わかちゃん 私が思った給食が残りやすいなと感じたときは、5時間目の授業が体育のとき、気持ち悪くなるからあんまり食べたくないという子が多いです。

○市長 ああ、あるね。

○わかちゃん ご飯がカレーとかセットだったりすると食べやすいという子もいるんですけど、ご飯だけで、後がただのおかずというときは、何と合わせて食べたらいいのか分からないというので、ご飯が余りやすいなと感じたのと、あと、和食のとき、特に魚のときが、魚とか残りやすいのかなと思いました。

あと、さっきのおかわりしづらい雰囲気があるというのもすごい共感で、男子はもう特に気にしないんで、ばんばんおかわりしているのと、私も中学生に入ってからはおかわりしていない日がないので、おかわり行くんですけど、「恥ずかしくないの」と聞かれたりするので、そういう雰囲気があるのがやっぱり原因かなと思いました。

○市長 なるほど。ありがとうございます。かおるさん、いいですか。

○かおるさん 私の学校は、白米を残す人が多かったので、その理由を考えたんですけど、おかずが薄味なときはご飯が進まなくて、それで、だから全部食べ切れないとまずいから、みんな最初に減らして、白米がいっぱい余っちゃうというのと、苦手な食材が入っているときというのも一緒に、それだと、私の学校は、最初に苦手な物とかは減らしてから食べるんですけど、そのときにおかずが足りなくなって、みんな何も食べられなくなるみたいなのが結構あったので、それを改善したいなど。

○市長 なるほど。ありがとうございます。では、ゆっきーさん、行きましょうか。

○ゆっきーさん 僕は、給食で残るのは白米のときだと思うんです。

○市長 白米のときね。

○ゆっきーさん 僕は、給食で残すのは白米のときだと思うんですね。希望者にふりかけなどを用意すれば、白米だけで食べにくいという人もふりかけがあれば食べれると思うんです。

○市長 なるほど。

○ゆっきーさん それで、お金が足りなくなっちゃったときには、ふりかけは授業で、家庭科の授業とかで作れば、お金も大丈夫かなと思って。あとワイルドカードも。

○市長 ワイルドカード、どうぞ。

○ゆっきーさん 市長さんのおかげでおいしい給食が食べられています。ずっと市長さんでいてください。

○市長 ありがとうございます。すごくうれしいワイルドカードでした。

白米のときというのは、ああ、そうなんだ。ゆっきーさんもかおるさんもそういう話ありました。牛乳の話も結構残っていることがあるんだなと。

ヤギさんは、牛乳が出たとき、小学校6年生ですけど、牛乳やっぱり、ヤギさんも牛乳は苦手？（○ヤギさん 大丈夫です）大丈夫。でも、牛乳が出たときは残っているよ、ということですよね。コメントいただいていいですか。

○ヤギさん アレルギーの子もいるんですけど、やっぱり味、牛乳の味が嫌いという子もいるんじゃないかなと思います。

○市長 なるほど。結構牛乳と言っている子、ほかにいますか。牛乳ね。

○おいなりさん 書いていないんですけど。

○市長 うん。書いていなくても、いいよ。おいなりさん、お願いします。たいちくんもそう、うん。ちょっと次、たいちくんのところ。

○おいなりさん 年上の皆さんが言っていることを聞いて、牛乳が残るとき、自分で考えてみたんですけど、そのときはほとんど休みが多いときだと思いました。自分の担任の先生は、2本目はいいって言うん

ですけど、3本目はいいって言わないので。たくさんの人が牛乳をおかわりしないと牛乳が残るとい
うのがある。

○市長 残っちゃうときあるんだね。おいなりさんのフリップ、見た目がおいしくなさそうなき（ひじき
など）と書いてある。おいしくなさそうか、ちょっと残念です…。ありがとうございます。じゃあ、
たいちさん、行きましょうか。

○たいちさん 自分は、牛乳が好きでおかわりしているんですけど、でも何か余った牛乳を入れるバケツみ
たいなのがあるんですけど、そこをちょっと気になって見に行ったときに、もうバケツ二つ分くらい、
もう牛乳が余っていて、それで同じクラスの全然飲んでいない人に「何で牛乳全然飲まないの」と聞
いたら、何か「匂いが臭い」と言っていて、それで何か牛乳のパックに何かいい匂いが出るやつをつ
けたらよくなるんじゃないかなと。

○市長 なるほど。いいアイデアだ、何かすごい良い発明しそうだね、たいちさん。ありがとうございます。

なるほどね。ちょっと僕、今まで話聞いていて思ったことがあって、大人たちが考えている給食の
意味だとか大切さだとかというところが、うまく何となく伝わっていないような気がすると思う。

というのはね、例えばこんなことがありました。中学校給食をやりましたと言ったときに、牛乳
の話をしました、僕。これは市長というよりも、ある意味個人的な思いとして、今度中学校給食をや
るときに、白米がすごく多くなるから、ご飯と牛乳ってちょっと合わないんじゃないかなと思って。

いや、これ、あんまり市長の発言だというと大変問題になるので、あくまでも個人的な話として、
「どうなんですかね」、「ほかに何か代わる物ありますか」というふうに聞いたら、「給食で、カルシ
ウムがほかでは取れません。ほかに、例えば取れる物ありますけど、むちゃくちゃ値段が高くなりま
す」という、「ある飲料メーカーのこういう商品は」とかと言ったら、「それ、ものすごく高くなりま
す」って。で、保護者の負担がものすごく増えてしまうので、ちょっと諦めましたけど。やっぱり牛
乳を取らないと、1日の、給食って1日の半分の栄養を給食で取ってもらうというふうなことで設計
をされているので、カルシウム分はこのぐらい取ってくださいというふうに設定しています。

だから、牛乳を飲んでおかないとカルシウムが足らないよね。なんですけど、なかなかその好み
の問題とその栄養素として大事な、皆さんが成長していくために必要な栄養素を、「家で取っているか
らいいよ」と言うかもしれないけども、学校でちゃんとそれを担保しなくちゃいけないというふうな
のも、学校の給食としては意味があることなんです。

だから、さっきいろいろあったなと思って、見ていて、牛乳とか魚、野菜が多いときとか、苦手な
物、豆とかひじきがとかという、なかなかあんまり家で食べつけない物、あんまり家で食べないな
という物が意外と給食残っています。

時間がないというのは、結構、小学校でも中学校でも共通してあるかな。まさきさん、どうぞ。

○まさきさん 下で嫌いな食べ物が出てきたときで、結構牛乳とかもううちのクラスだと1口は食べるけど、
ほかのクラス、牛乳7本ぐらい残っていたりしてもったいない。

○市長 ねえねえ、ちょっとこれ、同じメニュー食べていて、クラスによってすごく残り方が違うところっ
てない？あれ何で？そんなに好みってクラスによって変わる？何、るかちゃん。

○るかさん すごい食べる人たちが同じクラスにたくさんいて、ほかのクラスにいなかったら、すごい残る
と思う。

○市長 本当？そんなに違う。ほかに意見ない。もえかさん、お願いします。

○もえかさん 私の学校のあるクラスは、すごく給食が大好きな先生がいるので、その先生のクラスは、何
か給食ファイターズみたいな感じでたくさん給食を食べているから、何かクラスの雰囲気とか、給食

の楽しさとかが結構給食を食べるか食べないかに影響してくるのかなというふうに思いました。

○市長 今のもえかさんの意見にちょっと賛成という人いますか。

(賛成者挙手)

○市長 結構いるんだ。あ、黙食駄目ね。なるほど。楽しんだほうがいいね。そりゃそうだ。びっくりしました。もえかさんのこの先生の雰囲気づくり。クラスの雰囲気づくりで食べる、残す量って大分違う。

しーちゃんさんは、すごく今、うなずいてくれたけど、ちょっとコメントもらっていいですか。

○しーちゃん さっき言っていたみたいに、先生がこれぐらいならおかわりしてもいいよとか、ここまでしかおかわりしちゃう駄目だよとやっているところは、めちゃめちゃ残るし、給食の時間に音楽とかが流れていて、楽しいところとかは結構残らなかったりするんですけど、私の隣のクラスがものすごく牛乳が余るんですよ。「何でそんなに余るの」と聞いたら、「みんな牛乳飲みたくなくて、全員水筒を持ってきているから、みんなお茶飲んじゃうんだよ」という話でした。

○市長 えーっ、そうなの。なるほど。でもちょっと今のもえかさんの衝撃の話にみんながほとんど賛同しているというところに、ちょっと、さっき僕、大人の意味が伝わっていないと言っていましたけど、逆に皆さんの声が大人たちに全く伝わっていなかった一つの事例ですね。僕もびっくりしました。

そういう雰囲気づくりが残す、残さないにも、影響しているんですね。ツチハマさん、すごくうなずいているけど、何かコメントはありますか。そういう雰囲気ですっぱり違ってくる？

○ツチハマさん コロナ禍になって、対面で食べるということが機会的にも減ってきていて、だから、黙食が必要とされる世の中になってしまったというのが今なので、そういうのをもうちょっと盛り上げる機会があってもいいのではないかなと思います。

○市長 なるほど。ちょっとここで、教育長にちょっとコメントもらいたいとおもいます。

教育長、学校教育の責任者です、皆さん。これはちょっと私、衝撃的な話で、ちょっと教育長からコメントもらっていいですか。

○教育長 皆さん、どうもありがとうございます。今、黙食という話があって、本当にそうだなと。この間、ある小学校に市長と一緒に給食食べに行ったときに、1年生のクラスに入って、みんながしーんと食べている姿を見て、結構衝撃を受けました。上級生になるともう少しにこやかな、なごやかな雰囲気があったんですけど。

これ、影響大きいなと思って、文部科学省のほうでも方針を変えたので、川崎市でも黙食ではなくて、会話、普通の声で会話してもいいんだよということをこの間、ちょうど川崎市の市議会で私から答えました。次の日の新聞なんかにも出ていましたけれど、だんだんそういう方向にはなると思うんですけど、やっぱり楽しくなきゃ食べられないというのは、当然かなと思うので、皆さんの意見、あと先生がつくる雰囲気とかって、本当になるほどなと思ったので、ぜひ活かしていきたいなと思いました。

○市長 ありがとうございます。

いや、皆さんのすばらしい意見がちょっと今、川崎市の給食時間、ちょっと変わるかもしれません。

給食について、何かまだ言いたいことがある人。あとね、この2分ぐらいでということなので、二人ぐらいにちょっと絞っていききたいな。まだ発言していない人はいる。今日、発言していない人。

こたさん、発言していない。オーケー。こたさん、行こうか。

○こたさん 書いてはいないんですけど、何か給食いっぱい食べれるよという人が、余ったやつを一人で独占して食べ切るというやつをやっているんですよ、うちのクラスだけでドリンクバーシステムみたいに。ご飯が残ったよ、だったらみんなでじゃんけんして一人独占して食ってくれという。じゃんけん

して決めたり、おみそ汁飲むときも、あ、ちょっとだけ余った、一人独占しようってみんなで決めて、やるというやつをやっていた。

○市長 えー、そうなの。それ、みんなで決めたの。

○こたさん みんなでというか、いつの間にか先生が決めていた。

○市長 先生が決めちゃったか。みんなで、もうちょっとうまく分けようってね、言っておいて。ありがとう。ちょっとまだ発言していない人。あ、ごめん。ワイルドカードを出してくれているの、たばた氏、お願いします。

○たばた氏 私は、食育のホームページを知ってほしいなと思いました。私は、小学6年生のときに給食委員会をしていたんですけど、食育のホームページというものがちゃんと川崎市なら川崎市にあると思うんですけど、そのページを知っている人は本当に少ないと思うんですよね。そのホームページには、何か学校給食のレシピが載っていたりするとか、給食の大切さ、さっき市長さんがおっしゃっていたように、給食にはちゃんと給食の意味があるというところも書いてあるのに、それを知らないというのがすごいもったいないなと思っていて、その食育のホームページを少しでも多くの子どもたちに知ってほしいなという思いがあって、ワイルドカードに書きました。

○市長 すばらしいです。ありがとうございます。僕が言いたかったことを言ってくれたような意見でした。ちょっと次のテーマに行くので、少しまとめますけど、時間がないというふうなのは、やっぱり学校給食の時間をしっかり取るということはすごく大事なことになるので、やっぱりこれ、授業の関係もあると思いますけど、そこは学校の先生方にもう少し努力していただく必要があるかなと思います。

牛乳であるとか、あるいは苦手な物って食べ物があるというふうに、いろいろあったんだけど、先ほど、今、たばたさんが言ってくくださったように、どういう意味があるんだろう、僕たちが食べている物にということをもう少しみんなに知ってもらって、考えてもらって、給食を食べると、それもすごく大事なことになるので、そういう話をもう少し深めたいな、みんなに知ってもらいたいというふうに思います。

それから、雰囲気づくりというのは、こんなに食べ物を食べる、残すということに影響するというのは、みんながそういうふうに思っていることに正直驚きましたし、ここは、大いに改善の余地があるなというふうに思いました。

ごめんね、いろいろ書いてくれたのに取り上げられなかった皆さん、ごめんなさい。

じゃあ、次のテーマに行きたいと思います。ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。すみません、司会のほうで、うまく説明ができていなかったんですけど、実は、給食のほう、もう一つ、フリップがありまして。今度は、子どもたちのほうから、こうしたら今よりもっと食べられるかもしれないというアイデアを書いています。なので、ちょっとそ見ていただいて、幾つか御意見いただければなと思っています。もう一つのフリップのほうを皆さん、御用意をお願いします。

○市長 「自校献立を増やす。」「選べる給食のほうがいいと思う。」「キャラ弁っぽくしたら食べたくなくなると思う。」「いいね！でも、作るのは難しいが、これね。」「お茶が欲しい。」「二つのコースを出してもらおう。」「選べる給食ということですか、Aコース、Bコースみたいに。」「とにかく必要な栄養を取ろう。」「給食をハンバーガーやおにぎり、サンドイッチなど、片手で食べるものにして、大事な栄養をひとまとめに。」「ナイスアイデアですね。」「給食に興味を持つ。」「ありがとうございます。さっきからの話ですよ。」「給食に関心を持ってもらおう。」「

あかりさんは、「もっと給食のことを知ろう」と。ありがとうございます。皆さん、同じ。やっぱり

中学校3年生、2年生、中学校の高学年になってくると、やはりそういうことを思ってくれているんですね。

なっちゃんは「量を自分で調整できたらいい。」あ、これはさっき結構あったよね。同じ意見の人、もう少し。

「ぴったり賞」、「タイの給食」って、ちょっとこれは、どういうこと？

○いっくん タイの給食って、バイキング制なんです、給食が。

○市長 あ、バイキング制なのね。

○いっくん 給食なのにバイキング。だから、自分の食べたいものを取れるんですよね、タイの給食。もしかしたらそれを導入したら、もうちょっとよくなる、事態が好転するんじゃないかということにつながる。

○市長 ありがとうございます。僕のマイク、渡しちゃって、すみません。

「おいしい給食に。おいしかったら食べたくなるはず。」

「どの学校が一番残さないか対決したい。」いいアイデアですね。これ、結構いいかも。確かにだよ。みんなどう思う。どう。

いや、これ、クラス対抗でも結構。そういうことをやっているところはない？クラス対抗。まりさんのところやっている。ジュンさんのところもやっている。結構やっている。たばたさんのところもやっている。

○たばた氏 小学校のとき。

○市長 小学校のとき。あ、でもまだ少ないですね、少数派ですね。面白い、これ、るかさんの話。

「時間を延ばせば食べやすく。」「牛乳をミルメークなどで味変。」なるほど。味変ね。

「自分の好きな量をもらう。」、さっきの調整のね、先ほどありましたね。自分の好きな量をもらう。

「もぐもぐタイム。」「おかわりしやすい雰囲気。」先ほどありましたね。

「2種類のソースなどに分けて選んでもらう。」なるほど。さっきのAコース、Bコースみたいな感じですか。こたさんは。「給食を7日間食べ続けたら…」？

○こたさん 宿題を1日なしにする。

○市長 給食を7日間食べ続けたら、宿題を1日なしにする。よくないと思います(笑)。やりたい？これは子どもの賛同は相当高いですけど、大人としては賛同できません(笑)。ありがとうございます。

本当、でも、ちょっと市長的になっちゃいますけど、給食に興味を持ってもら、給食のことをもと知ってもらおうというふうなことは大事。たばたさんが先ほど栄養素だとか給食のことをもっと知ろうというふうなこともそうですし、るかさんのこの話は、結構みんな賛同していたね。こういうのはいいかもしれない。少し雰囲気をみんなで楽しく食べて、そしてさらにどこが一番食べ残しが少ないかと競争すると。「少ないところへ何かアドバイスがあったらいいね。」いいですね。

「飲物をお茶にしてほしいと結構ありますね。えーたんさんもそうですね。「シェフにお子様セットのレシピを教えてください。」なるほど。ユウゴさんは「ハンバーグなどに刻んで入れる。」要は嫌いなものをハンバーグの中に入れちゃおうというやつ。

あつ、くたらぎさんの面白い、ワイルドカード。「給食で量が多いので、2回に分けて食べれたらいいな」と。おお。実はこういう学校ってあるんですって、これ全国で。10時ぐらいかね、牛乳を飲む学校。10時ぐらいか何かお休みのときに、給食、牛乳をみんなぎやーって飲むんだって。そうすると、何か次の授業が集中できるとか。栄養素は取れているから、1日の栄養素は全部大丈夫だ、みたいな。結構それもハードル高いから、あんまり僕は言わないほうがいいと思いますけど(笑)。あ

りがとうございます。すばらしい御意見をいっぱいいただいていますね。ありがとうございます。いいね。

「盛りつけが工夫されていたらいいな」とかって、さっきのキャラ弁に通ずるものがあると思いますけど。すてきな意見いただきました。

○司会 ありがとうございます。そうしましたら、次のテーマ③に移ろうと思います。

テーマ③は、「デジタル技術でかなえるミライの学校スタイル」という形で、市立の小学校や中学校では、GIGA端末なんかも用意されていますし、高校生でもパソコンとかを取り入れたりしているみたいですので、このテーマについて、フリップの準備をお願いします。

こちらのほうも、皆さんからいろんなアイデアが聞けたらなというふうに思っていますので、準備ができればフリップをぜひ見せてください。

○市長 それでは、幾つか聞いてみましょう。おだっちから聞いてみましょうかね。お願いします。

○おだっち 規制を緩めてというのは、この授業中とかに例えばみんなで調べ学習をするときとかに、何かこのサイトとかだったらこの授業に役立ちそうだなと思ったときに、開いてみたら、何か規制がかかって全然使えないとかそういうこととかが多いので、もっと規制を緩めて。

あと、部活中とかに例えばPCを使って音楽を調べるとかそういうときとかも、何か規制がかかって使えないときとかが多いので、もっと規制を緩めて、みんながもっと使いやすいような環境とかそういうのをつくってほしいです。

○市長 なるほど。ありがとうございます。はるおさん、行ってみましょうか。

○はるおさん リモート授業が学校に行って授業をするかを自由に選べたらいいなと思いました。家が遠くて学校に行きたくないという子もいると思うし、リモートでやるといいなと思う人もいると思うので、それがいいと思いました。

○市長 なるほど。確かに端末があると、どこでもというふうなことはあるけどね。なるほど。そらさん、行ってみましょうか。

○そらさん 私は、高1なんですけど、高校生の視点かもしれないんですけど、高校からは義務教育じゃないじゃないですか。だからこそ、全ての教科を平均的に伸ばすというより、何か得意な教科、一つ、二つだけでも伸ばせたら、何かそれでいいんじゃないかなと思うので。でも、何か自分が得意な教科って何だろうと思ったときに、何か意外と自分の得意な教科とか苦手な教科って分からなくて、そういうときに学校で今までの試験の結果とかをデータにして、私の得意な教科とか、逆に苦手な教科とかを教えてくれたら、それで自分も、じゃあ、この教科をもっと頑張ってみようかなと思えたりとかがあるんじゃないかなと思って。

あと、それができるのなら、何だったら、その苦手な教科も、何か苦手な教科の中で、特にこの分野はもうちょっとこういうところをこうやって勉強したほうがいいですよみたいなのが分かったら、そうやって勉強できたらいいなと思いました。

○市長 すばらしいです。すばらしいです。そらさんが言ってくれたのは、実は、今年、来年の4月から川崎市はそういうのが分かるようになります。というのは、ちょっと残念なお知らせかもしれませんが、小学校4年生からですね、中学校3年生からも毎年これから学習状況調査をやります。

そうすると、何が得意で何が不得手というか苦手だなというふうなのが、全部分かるようになってきます。それが皆さん御自身のところと保護者の方に、それから学校も、というふうなのが分かるようになるので、自分のどこが苦手なんだ、できていないんだろうというふうなのが分かるようになって、苦手なところをGIGA端末でドリルみたいなのを復習できるような形になってくるので、それ

がずっとみんなが、どこが分かっていたんだろうというのが、小学校4年生から中学校3年生まで全部履歴が残るので、そういう意味では、自分の得意なところをもっと引き伸ばすというのが、高校生からできるとかね、そういうふうな形になっていくと思うので、ぜひうまくこれを活用してもらいたいなと思いますね。ありがとうございます、そらさん。

それでは、まだちょっと御発言いただいていない方、なっちゃん、いってみましようか。なっちゃんは発言してもらいましたね。すみません、でももう一回お願いします。

○なっちゃん 私の学校は、パソコンを一人1台購入して使っているんですけど、パソコンにパソコンで見れる資料とかもあるんですけど、見れない資料とか教科書もあって、結局、パソコンと教科書と問題集とかノートとか、あとその他もろもろ、部活のものとかを持って登校するはめになって、ものすごく荷物の量が重くなってしまって、5キロとかになってしまう日もあるので、できればパソコンを導入するならば、もうパソコンに教科書を統一するとかして、子どもの体への負担を考えてほしいなと思いました。

○市長 さすがのなっちゃん、高校1年生。確かに重くなっていますね。ワイルドカードをたいち君が出してきていたのかな。ランドセルね、うん、そう。重いと書いてくれていたね。

○たいちさん 今言ってくれた人と同じで、ランドセルが重過ぎるというのがあるので、パソコンに教科書とかもう全部入れちゃって、それでやったほうが楽になって。

○市長 うん。もう教科書じゃなくても、電子教科書みたいな、デジタル教科書でもいいという感じなの。

○たいちさん はい。

○市長 なるほど。なるほど。みんなそんな感じ。(○子ども 字で書いた方が覚えやすい) 字で書いたほうが覚えやすい? うん、確かにね、そういう意見もあるね。

あいみちゃんのが1年生から6年生の教科書をデジタルに。まさにそういう話ですね。

○いっくん 実は最近有名な本で、スマホ脳という本があるんですけど、ここに何とデジタルで見ていると、紙で見るよりも20%ぐらい脳の活動が別のところに持っていかれちゃう。なぜかというデジタルでは、みんなさ、ほら、YouTubeとか見たりするじゃん。どうしても何かそうするとYouTubeの見たいなみたいになっちゃって、学習の効率が結局落ちちゃうよ、だからちょっと紙にしたほうがいいなみたいなのがあるので、やっぱり教科書とかみたいなものは、学習に必要なものはやっぱりデジタルじゃなくてアナログのままに残して、紙にして残しておくべきかなと思ったりします。

○市長 なるほど。そういう意見もあるね。それでは、もえかちゃん、行ってみましようか。

○もえかさん 私の学校では、デジタルと紙の教科書を併用して使っていて、それによって重くなってしまうって、同じように5キロとかなることもあるんですけど、学校の授業を受けるときは、教科書の図を見たりとか資料を見たりするだけという教科は、特に普通の教科書を先生がPCに取り込んでくれて、PDF化したものとかを見ながら使っていて、それによってちょっと持ってこなくていい教科書を使っている感じなので、紙を家に置いておいて、自習するときは紙を使って、デジタルは学校の授業で使って、学校には紙を持ってこないというふうにすると、体の負担も減るし、学習の効率もそんなに落ちないのかなというふうに思いました。

○市長 なるほど。ありがとうございます。隣のあさんもかな。ちょっとさえさんも書いてくれているので、さえさん、ちょっといいですか。

○さえさん 私は、授業の動画があるといいなと思いました。GIGA端末とかで見れるようになるのいいと思いました。休んでいるときとかは、授業に参加できないから分からないじゃないですか。それにノートを提出するというときに空いちゃうんですよね。だからそういうとき、そういう動画を見れる

とノートも書けるし、休んでいても、復習とかもできていいなと思いました。

○市長 ありがとうございます。かなりそういう御意見が多いですね、ぱっと見た感じで。なるほど。

あきさん、お願いします。

○あきさん 私は、学校で小学校の頃にゲームがオーケーにされたときがあったんですよ。それでGoogleのゲームとかでみんなが休み時間のときにやったり、ちょっとにぎわっていたんですけど、中学校になったらゲームが駄目と言われるようになったちゃって。それで、結局どっちなのという、ものすごい疑問があるんですよ。どっちなんですか。

○市長 ちょっと教育長に聞いてもいいですか。

○教育長 小学校のときのGIGA端末ではゲームはしてもオーケーだったのに、中学校に行ったら規制がかかった。ああ、なるほど。全体的に中学校に入ったら、GIGA端末でこれしちゃいけない、あれしちゃいけないという規制が多いんだよね。それは私も聞いていますので、それじゃあ、活用がまだまだ進まないから、もっと自由に使えるようにという方向性にはあるんだけど、ゲームもいろいろあると思うので、一つ、鋭い指摘として受け止めながら、ちょっと実態なんかを聞いてみたいなと思っています。

○市長 そうですね。あきさんからさらにワイルドカードで、「なぜゲームしたらダメなんだ!!!」と、強い気持ち。

○あきさん ゲームをすることは、一種のコミュニケーション方法だと思うんですよ。ゲームをすることで、普段しゃべらない人がこのゲーム知っている、ねえねえ、しゃべらないってなったりとか、あと物すごいコミュニケーションが取りやすくなると思うんです。だから、それを禁止しちゃうと、何かしゃべることがなくなって、休み時間につまらなくなっちゃったりとかするから、ゲームしちゃ駄目はおかしいと思うんです。別に頭が悪くなるということじゃないと思うし。

○市長 ゲームっていろんな活用方法がすごくあると思っていて、ゲームの世界というのは、物すごく僕、広がりがあると思うんですね。今、コミュニケーションの話を言われていましたけど、今、eスポーツという形で、いろんな、例えば障害がある方もない方も一緒にゲームができる、遊べるとかという意味でも、非常に多様性のあるものって、遊び方だとは思ったり、勉強の仕方もあると思うし、あると思います。

どういうところで、どういうゲームを活用するのかというのは、ちょっといろいろ課題があるかもしれないですけど、決して全く否定はしておりません。ありがとうございます。

ちょっとさっき、ミカヅキさんもちょっと気になったんだよね。ちょっと発言してもらっていいですか。とても何か魅力的な、はい。

○ミカヅキさん 例えば算数の図形を切るときだったら、例えばパソコンだったら、たくさんの図形とか調べたら出てくると思うから、その中から予想するとか、発想力とか、GIGA端だったらその図形とかを回すことで、新たな発想が生まれるかもしれないから、発想力が生まれると思う。

○市長 なるほど。発想力が膨らむ授業がほしいと書いていたのは、そういうことですね。GIGA端だからこそ、その中の画面上で図形なんかを回してとかというふうなことも可能だしと、そういうふうな使い方ができるという可能性が出てきたということですね。これは本当、すばらしいですね。ミカヅキさん、小学校4年生ですよ。すごいな、すばらしい。こうきさん、どうですか。ちょっと発言してもらっていいですか。

○こうきくん 僕は、Chromeのリモートで、勉強だけじゃつまらないと思ったので、ちょっとしたレクもしてほしいと思いました。

○市長 例えばどんな感じの。

○こうきくん 何か手遊びゲームとか。

○市長 おお。手遊びゲームとかをそういうのを何かオンラインとかで流してくれるといいと。なるほど。それも活用する方法としてありますね。ありがとうございます。ほか、もうちょっと話したい人。はい。すごく積極的に挙げたのは、たくみくんですね。はい、たくみくんどうぞ、お願いします。

○たくみくん 教科書とかそういうのをデジタルにしてほしいと思うとは言っているんですけど、自分は教科書をアナログにしておいて、ノートでデジタルにしたほうが、何か別にノートは使い切っちゃったらまた買わないといけないし、お金かかるし、行くの面倒くさいし。だから、デジタルを使ってノートを無限にしたほうが、何か記録に残るし、そっちのほうが教科書をアナログにして、ノートをデジタルにしたほうがいいと思いました。

○市長 なるほど。ありがとうございます。はい、もちさん、お願いします。

○もちさん 学校で学ぶのは、子どもたちですけど、その子どもたちを教えている先生方にも学ぶ側でいてほしいなと僕は思います。

なぜなら、GIGA端末の扱いに全然慣れていない先生とかだとずっと教科書を開いてという感じの授業になっちゃったりとかするから、やっぱりみんな学ぶ、人ってずっと学んでいくものなんだなという考え方を、そんな感じでしてもらいたいなと思います。

○市長 すばらしい。ありがとうございます。なっちゃんも書いてあるのが気になりました。先生の質と書いてありますが、お願いします。

○なっちゃん これは、本当にリモート授業とかができるようになってきて、友達がこの前濃厚接触者になったときに話を聞いたら、先生の授業がつまんな過ぎて、もうリモートだからバレないから、全然違うことしていたというふうに言っていて、その子、学校にいと仕方なく聞くんじゃありませんか。でも、そういうのを、本当はちゃんと聞くべきだし、リモートになるとさらにそういう授業を聞かなくてもバレなくなってしまうので、もっと先生の質をよくして、リモートでもリモートじゃなくても、そこはちゃんとしていくべきではないかなと思いました。

○市長 そうだね。それはやっぱりこういう端末だとかというふうなのも先生も初めてで、先生方もどきどきだと思うんだよね。だから、本当にもちさんも言ってくれたみたいに、やっぱり先生も今、学び途中のところあるので、一緒にいい授業をつくり上げていくということに、みんなが、先生方も努力してもらわないとですね。ありがとうございます。

たばたさんの地域交流とかというのと、ヤギさんの世界中の人とつながって、そこの国のよいところを紹介するとかあって、面白いですね。何かオンラインでつながっているからこそできるような話ですね。じゃあ、たばた氏さんから。

○たばた氏 私は、2点で地域交流という点があると思っていて、一つは、コロナ禍になってオンラインという、さっきもおっしゃったようにオンラインという交流方法が新たに増えたというか、加わったと思うので、それを生かして何か海外の方と実際に体験してみること、すごい大切だと思うので、英語で会話したり、逆に日本語を教えたりする交流がすごいいいなと思っていて。

二つ目は、何かすごい今、進んだ話をしていると思うんですけど、ふと思い返せば、多分昔ながらのもいいことはすごいいっぱいあると思うんです。何かさっきの公園の話では、何か大人たちに子どもたちの気持ちを分かってほしいということもあったと思うんですけど、大人と子どもがお互いを知らない。知らないからこそ行き違いが起ってしまうということがあるので、その地域、小さな地域でも子どもから大人まで、そしてお年寄りの方まで、いろいろな世代で交流することで、何か新しい

ことを学べたり、お互いの気持ちが分かり合えたりということが生まれると思ったので、私は地域交流と書きました。

○市長 ありがとうございます。すばらしいですね。ヤギさんもいいですか。最後、もっくん、行きますか。

○ヤギさん 私は、社会とかの授業とかでGIGA端を使うんですけど、現地の人とつながって、何か…。

○市長 よいところを紹介しているとかができるわけね。さっきのに似ているね。何か、要はオンラインでつながっているから、先ほどたばたさんが言われたような、地域ともできるし、海外の人ともできるしということですね。ありがとうございます。さすがです。

ほか、しゃべっていない人いませんか。今日来ただけ発言していない人って誰かいらないかな。大丈夫。もっくん、ごめん。もっくん、先に行きましょう。

○もっくん 僕は、オンラインを通してほかの学校とか大人の人と一緒に、何て言ったらいいのかな、何て言えばいいのかな、ある学校で道徳とか総合とかそういった時間にあることをしゃべり出したり、そのようなことをすれば、ほかの人とは交流ができたりはある考えが発達적인になると思います。

○市長 うん。ありがとうございます。他の学校の人やいろんな人たちとあるテーマのことなどを話し合えるようなことができると、端末使えばね。ありがとうございます。ゆっきー、行ってみましょうか。

○ゆっきーさん 僕、支援級なんですけど、支援級の人とか見ていると、交流級とかで発言があんまりできていないので、バーチャル空間ができると、バーチャルだとしゃべるんじゃなくて、リモートでチャットとかで話せるので、言葉では喋れない人とかも、積極的にしゃべれるのかなと思います。

○市長 なるほど。積極的にしゃべれるようにと。ありがとうございます。わあ、みんなすごく挙がっていて、むちゃくちゃうれしいんだけど。ごめんね、僕の進行が悪い部分はあるんだけど、大分時間が延びちゃっているんで、ちょっと待ってもらっていいかな。1回ちょっと手を下げてもらっていいですか。

○司会 すみません。皆さんまだ意見、いっぱい言いたいところがあって申し訳ないんですけど、この時期、あんまり遅くなってしまうと、すぐ暗くなっちゃうので、一旦テーマについては、ここまでにしようかなというふうに思っています。

また、今日出していただいた意見というのは、全部川崎市のほうで、今日、このフリップも最後、集めさせてもらって、検討していこうと思っています。今日はありがとうございます。

最後に、ステップ③の来年度のこの会に向けて、この三つのテーマのうちのどのテーマ、もっとみんなで話し合えたらいいかなというのを決めたいなと思っています。今までの話を振り返って、多数決で、選ばせてもらえたらいいなと思っているんですが、皆さん、大体決まっていますか。大丈夫そうですね。今からテーマを言いますので、このテーマがいいなというのを一つ手を挙げてください。

では、まず一番最初、ボール遊びがしたい、このテーマを来年1年間かけて、みんなで検討したいと思う方、手を挙げてください。

(賛成者挙手)

○司会 ありがとうございます。二人ですね。

じゃあ、次に、給食づくりについてやりたいなと思う人、お願いします。

(賛成者挙手)

○司会 14名ですね。ありがとうございます。

じゃあ最後に、デジタル技術でかなえる学校のスタイルをやってみたいなと思う方。

(賛成者挙手)

○司会 わー、多いですね。ちょっと数を数えるのはやめます。このテーマ、じゃあ、デジタル技術の話、

特に最後まで意見言いたいなという声もたくさんありましたので、このテーマでやっていきたいなと思います。

○市長 そうですね、はい。

○司会 では、最後に、今日の感想も含めて、市長から一言お願いいたします。

○市長 皆さん、今日はありがとうございました。もっともっとお話聞きたいし、もっともっとみんなもしゃべりたかったことがたくさんあるんだと思うんですけども、この限られた時間の中で、みんな協力してもらって、今日の会ができて、本当にありがとうございました。

皆さんの意見を聞いて、「あ、そうなんだ」と思うこと、幾つもありました。「発見」、「気づき」、たくさんあったので、もっとこれをもう少し深めたいと思います。

今、三つのところから、一つ、来年も継続してやっていくテーマを絞りましたけども、ぜひ皆さんにこれからも参加してもらいたいですし、これから大事なのは、「みんなの意見を聞きました」ということで終わるんじゃなくて、聞いたことがどういうふうな人たちと関わって、どういうふうの実現していくのかという、そのプロセスと結果ということまでやるのが大事だと思っています。

私が聞いて、私だけが実現する、主体ではなくて、今、日頃学校の中でもいろんな地域の人たちが皆さんの学習だとか、地域でお世話になっている方、たくさんいると思うんですけども、地域の方だとか、あるいは企業の方だとか、そんな人たちとこの今日集まって出た意見というのをみんなで共有して、皆さんの意見を最終的にどこまでできるのかということを、これからプロセスを踏んでやっていきたいと思っていますので、ぜひ関心を持ち続けて関わり続けてもらいたいなというふうに思っています。

「自分の言ったことがどういうふうになっていくんだろう」と、必ずしも自分自身の意見が全て通るわけではないけども、みんなから出てきた意見で「なるほど」と、「そうだな」と大体の人たちが、「あ、そうだよ」と思うことって、多分みんな見た中でも結構あったと思います。

そういうふうになるべく向かうように、私も含めて教育長もそうですけども、いろんな形で努力していきたいなというふうに思っていますので、引き続きよろしく願いしたいと思います。

教育長から、ちょっとお話をいただければと思うんですけども。

○教育長 今日は、皆さん、ありがとうございました。積極的な話はすばらしかったなと思うし、それを支えてくれたサポーターの皆さんのサポートが本当に生きていたなと思いました。

率直な感想として、大人にとっての「当たり前」とか「常識」が、みんなにとっては「当たり前じゃないんだ」ということをしっかりと受け止めなきゃいけないなと思いました。

今、市長がコメントをおっしゃったように、みんな、ふだん学校でクラスをよくしようとか、学校をよくしようという話し合い、いろんなことでやっていると思うんですが、今日の話し合いは、スタートで、これから川崎市が、また川崎の子どもたちにとってプラスになるようなことは、大人の社会と一緒に進めていくというスタートになると思うので、今、市長がおっしゃったように、これからも積極的にこういった話し合いだとか関わりに参加してほしいなと思います。今日はどうもありがとうございました。

○市長 どうもありがとうございました。じゃあ、みんなで拍手して終わりましょう！

(拍手)

○市長 どうもありがとうございました。